TADOKU JUNIOR　グリム童話　★★★☆☆ ふつう　499語

The Wedding of Mrs Fox

キツネのおくさんの結婚式

Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)（1823年の本）　原文そのまま　朗読：Bob Neufeld

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　死んだふりをした9本しっぽのキツネ。おくさんのもとには、結婚を申しこむ者が次々とやってきて……。2つの短いお話です。



FIRST STORY

There was once upon a time an old fox with nine tails, who believed that his wife was not faithful to him, and wished to put her to the test. He stretched himself out under the bench, did not move a limb, and behaved as if he were stone dead. Mrs Fox went up to her room, shut herself in, and her maid, Miss Cat, sat by the fire, and did the cooking. When it became known that the old fox was dead, suitors presented themselves. The maid heard someone standing at the house-door, knocking. She went and opened it, and it was a young fox, who said:

She answered:

'No, thank you, miss,' said the fox, 'what is Mrs Fox doing?' The maid replied:

‘Do just tell her, miss, that a young fox is here, who would like to woo her.’ ‘Certainly, young sir.’

‘Has he nine as beautiful tails as the late Mr Fox?’ ‘Oh, no,’ answered the cat, ‘he has only one.’ ‘Then I will not have him.’

Miss Cat went downstairs and sent the wooer away. Soon afterwards there was another knock, and another fox was at the door who wished to woo Mrs Fox. He had two tails, but he did not fare better than the first. After this still more came, each with one tail more than the other, but they were all turned away, until at last one came who had nine tails, like old Mr Fox. When the widow heard that, she said joyfully to the cat:

But just as the wedding was going to be solemnized, old Mr Fox stirred under the bench, and cudgelled all the rabble, and drove them and Mrs Fox out of the house.

SECOND STORY

When old Mr Fox was dead, the wolf came as a suitor, and knocked at the door, and the cat who was servant to Mrs Fox, opened it for him. The wolf greeted her, and said:

The cat replied:

‘No, thank you, Mrs Cat,’ answered the wolf. ‘Is Mrs Fox not at home?’

The cat said:

The wolf answered:

Mrs Fox asked: ‘Has the gentleman red stockings on, and has he a pointed mouth?’ ‘No,’ answered the cat. ‘Then he won’t do for me.’

When the wolf was gone, came a dog, a stag, a hare, a bear, a lion, and all the beasts of the forest, one after the other. But one of the good qualities which old Mr Fox had possessed, was always lacking, and the cat had continually to send

the suitors away. At length came a young fox. Then Mrs Fox said: ‘Has the gentleman red stockings on, and has a little pointed mouth?’ ‘Yes,’ said the cat, ‘he has.’ ‘Then let him come upstairs,’ said Mrs Fox, and ordered the servant to prepare the wedding feast.

Then the wedding was solemnized with young Mr Fox, and there was much rejoicing and dancing; and if they have not left off, they are dancing still.

1つめのお話

むかしむかし、しっぽが9本ある年をとったキツネがいました。このキツネは、おくさんが自分だけを大切にしているかどうかをうたがい、ためしてみようと思いました。キツネはベンチの下で長くなって、手足ひとつ動かさず、すっかり死んだふりをしました。キツネのおくさんは2階の自分の部屋に上がって、とじこもりました。おてつだいのネコさんは、だんろのそばにすわって料理をしていました。年とったキツネが死んだと知れわたると、おくさんと結婚したいという者たちがやってきました。おてつだいのネコは、だれかが家の戸口に立って、トントンとたたいているのを聞きました。行って戸をあけると、それは若いキツネで、こう言いました。

ネコは答えました。

「いいえ、けっこうです、おじょうさん」とキツネは言いました。「キツネのおくさんは何をしていますか？」おてつだいは答えました。

「どうか、おくさんに伝えてください、おじょうさん。若いキツネが来て、結婚を申しこみたいと言っていると。」「かしこまりました、若だんな。」

「その方は、なくなったキツネのだんなさまのように、美しいしっぽが9本ありますか？」「いいえ」とネコは答えました。「1本しかありません。」「それなら、お断りよ。」

ネコさんは下へおりていって、結婚を申しこみに来たキツネを帰しました。まもなく、また戸をたたく音がして、別のキツネが、キツネのおくさんに結婚を申しこみたいと戸口に来ていました。そのキツネはしっぽが2本ありましたが、最初のキツネと同じく、うまくいきませんでした。それからも次々にやってきて、しっぽは1本ずつ多くなっていきましたが、みんな断られました。とうとう、年とったキツネのだんなさまのように、しっぽが9本あるキツネがやってきました。それを聞くと、おくさんはうれしそうにネコに言いました。

ところが、いよいよ結婚式をあげようというそのとき、年とったキツネのだんなさまがベンチの下でもぞもぞ動き出し、集まった連中を棒でさんざんたたいて、みんなとキツネのおくさんを家から追い出してしまいました。

2つめのお話

年とったキツネのだんなさまがなくなると、オオカミが結婚を申しこみにやってきて、戸をたたきました。キツネのおくさんのおてつだいをしているネコが戸をあけました。オオカミはネコにあいさつして言いました。

ネコは答えました。

「いいえ、けっこうです、ネコさん」とオオカミは答えました。「キツネのおくさんはおうちにいないのですか？」

ネコは言いました。

オオカミは答えました。

キツネのおくさんはたずねました。「その方は赤いくつ下をはいていて、口がとがっていますか？」「いいえ」とネコは答えました。「それなら、わたしにはふさわしくないわ。」

オオカミが帰ると、イヌ、シカ、ウサギ、クマ、ライオン、そのほか森のけものたちが、次々にやってきました。けれども、なくなったキツネのだんなさまが持っていたよいところが、いつもどれかひとつ足りなかったので、ネコはそのたびに申しこみに来た者を帰さなければなりませんでした。とうとう、若いキツネがやってきました。するとキツネのおくさんは言いました。「その方は赤いくつ下をはいていて、小さくとがった口をしていますか？」「はい」とネコは言いました。「そうです。」「それなら、上へ通してちょうだい」とキツネのおくさんは言って、おてつだいに結婚のおいわいのごちそうを用意するように言いつけました。

こうして若いキツネのだんなさまとの結婚式があげられ、みんな大よろこびでおどりました。もしまだやめていなければ、今でもおどっていることでしょう。

たんご と クイズ キツネのおくさんの結婚式

fox キツネ	tails しっぽ	bench ベンチ
cat ネコ	wolf オオカミ	stockings くつ下
lion ライオン		

Q1 年とったキツネが死んだふりをしたのはどうして？

① おくさんの気持ちをためすため　② ねむかったから　③ ネコをおどろかすため

Q2 1つめのお話で、おくさんが結婚相手に求めたのは？

① 赤いくつ下　② しっぽが9本あること　③ 大きな体

Q3 2つめのお話で、最後におくさんと結婚したのは？

① オオカミ　② ライオン　③ 若いキツネ

こたえ

Q1 ① おくさんが自分を本当に大切に思っているのかうたがって、ためしてみようと思ったのです。

Q2 ② おくさんは、なくなっただんなさまのように美しいしっぽが9本あるかどうかを、毎回たずねました。

Q3 ③ 赤いくつ下をはいて、小さくとがった口をした若いキツネがやってきて、めでたく結婚しました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #2591（Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)、1823年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Bob Neufeld（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。